

「あなたがたは地の塩です」

マタイによる福音書5章13-16節

森島 牧人 牧師

今日の聖書は、「山上の説教（垂訓）」として広く知られている主イエスの説教の中の一部で、「あなたがたは地の塩である。・・・あなたがたは世の光である。」（マタイ5：13-14）という御言葉です。今日はその中の「塩」について考えたいと思います。

この聖書箇所には、表現上大きな特徴があります。その一つは、「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」同5：3）という有名な一節から始まり、「悲しむ人々は・・・」「柔和な人々は・・・」と、神の祝福の約束が三人称への呼びかけで続いて行く山上の説教が、今日の箇所である11節から突然、「あなたがた」という山上に集まり主イエスの説教を聞く弟子たちや群衆への呼びかけ、すなわち二人称への呼びかけに変わっているというところからです。山上の説教は三人称でスタートし、11節から突如私たちすべてを指す二人称に変わり、同7：23-27で再び三人称への呼びかけとなって終わっているのです。

二つ目のそれは、「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。」という表現です。「地の塩・世の光となれ」との努力目標の提示ではなく、主のもとに、主体的に集まって来た者は、すでに地の塩・世の光であること、それがすでに担保されていることを明らかにする、特徴的な表現となっているのです。

さて「塩」についてですが、塩の特徴の一つは「目立つ場所に居る必要がある」ということです。たしかに、日常的に使われる塩は、使い易いように目に付くところに置かれています。塩の負っている宿命は、この目立つ場所に立ち続けることにあります。地の塩であるあなた方も、助けを必要とする人の目に付くように、目立つところに立っていなければなりません。

塩の特徴の二つ目は、喜ばれたり、もてはやされたりすることはないということです。将軍のご意見番として知られた大久保彦左衛門が、家光の「天下一うまいものは？天下一まずいものは？」との問いに、いずれも塩と答えたというエピソードがあります。人のためになるものが、必ずしも喜ばれ歓迎されるとは限りません。「あなたがたは地の塩である」という御言葉の中には、本当に人に必要で役立つものとなろうとするなら、それは大方に於いて、嫌われ疎まれる役割であることを覚悟しなさいという、厳しい意味が含まれているのです。

さらに、これは塩の一つ目の特徴に入るかと思いますが、塩は流行に左右されることのない、不動のポジションを獲得しているということです。この塩の在り方は、教会の在り方を示唆しています。必要としている人のために、教会はこの社会の真ん中に堂々と立っていなければならないのです。しかし、もう一つの塩の重要な働きは、今述べたことと正反対の働きと言えるもので、塩がその姿を無くして、他のものの隠し味になるという働きです。自分の姿を無くす時、初めて塩は塩本来の働きをすると、主は弟子たちに、私たちに言われているのです。

主は、立派な信徒とはとても言えない私とあなたに、「あなたがたは地の塩・世の光である。あなたがたによって、この世は保たれ、神様の光をみることが出来る」と言われます。しかし、私たちは胸を張って「わたしは地の塩・世の光です」ということは、到底出来ません。それでも主は、そんな私たちに、希望を持ち、「あなたはそのまま地の塩・世の光であり、地の塩・世の光として生きることが出来る」という、希望を語ってくださっています。私たちは、この主の言葉の中に、自身のキリスト者としての姿を見出して行きたいと思うのです。

（説教要約 羽入田悦子）